

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部		
	課名	防災安全課		
	係名	交通防犯係		
	記入者		電話(内線)	281

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	通学路街路灯整備事業				(3) 事業の 優先度	A	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)		
② 施策コード	24303	(総合計画掲載ページ)		84	ページ		会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						財源区分	市単独		
基本施策	2-4安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)						予算科目	款 2	項 7	目 2
施策	③交通安全対策の推進						予算書上の	施設整備事業費		
施策内容	3街路灯の設置						事業名称	(予算書 65 ページに掲載)		
(5) 事業期間		開始	昭和	63	年	4	月から			
		終了			年		月まで (			力年)
					(8) 事務分類					
					根拠法令					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
児童生徒をはじめ、付近住民および通行者。	民家や照明灯のない暗い街路灯に対し、街路灯を設置することで、児童生徒の通学時の安全対策を図る。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	
申請を受け、内容の審査及び現地確認等を行い、許可案件について街路灯を設置する。	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし) 通学路の安全確保のため、街路灯設置の要望により実施。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
交通安全及び防犯対策の観点からも街路灯の設置要望数は増えているが、限られた予算の中での対応は難しい。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映					
実施計画											
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）					
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費	工事請負費		469		577					
	合計		469		577						
	財源	国庫支出金 (千円)									
		県支出金 (千円)									
		地方債 (千円)									
		その他特定財源 (千円)									
		一般財源 (千円)		469		577					
		合計 (千円)		469		577					
補助・起債制度名											

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	LED街路灯の新設	目標値	基		15	15	15	15
		実績(見込) 値		12	15			
		目標値						
		実績(見込) 値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	設置基数	目標値	基		1,242	1,257	1,272	1,287
		実績(見込) 値		1,227	1,242			
		達成率		95.3 %	96.5 %			
		目標値						
		実績(見込) 値						
		達成率		%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

LED街路灯の新設を進めた。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	経費削減のため必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	市で対応すべきである。
	手段の妥当性	A	妥当である	手段としては一般的である。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	経費は必要である。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	市内全域での設置個所が対象であるが経費の関係で一部しか対応できない。
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	多少であるが経費削減につながっている。
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	予算が限られているので、計画的な進捗は望めない。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

計画的にLED化を進めていきたいが、限られた予算の中での対応は難しい。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

今後計画的な対応を進めるうえで予算の拡充を図りたい。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	通学路の安全確保のため必要な事業であるが、設置数が1200基を超え維持管理経費が増大している状況である。国の方針によるLED化の流れもあり、継続的に更新を実施し、維持管理経費の削減を図る。
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う		上記評価のとおり。